

## 令和5年度 文京区障害者地域自立支援協議会

### 第3回相談・地域生活支援専門部会

日時 令和6年2月16日（金）午後2時00分から

場所 文京シビックセンター3階 障害者会館A・B会議室

#### <次第>

1 開会

2 議題

(1) 支援を円滑に引き継いでいく方法について

【資料第1号】

(2) 暮らしをサポートする仕組みについて

【資料第2号】

グループワーク

「地域での生活にある課題に対して、当事者や周囲の人はどのようにして

今を過ごしているのか」

(3) 親会での発表について

3 その他 次回日程等

#### <出席者>

樋口 勝 部会長、松尾 裕子 委員、志村 健一 副会長、佐藤 祐司 委員、夏堀 龍暢 委員、阿部 智子 委員、加藤 たか子 委員、関根 義雄 委員、井口 勝男 委員、中川 穰 委員、福田 洋司 委員、浦田 愛 委員、吉野 文江 委員、佐古 陽子 委員

#### <欠席者>

本加 美智代 委員、安達 勇二 委員、高田 俊太郎 委員、岩井 佳子 委員、荒井 早紀 委員

#### <傍聴者>

2名

## 1 開会

志村副会長挨拶

## 2 議題

### (1) 支援を円滑に引き継いでいく方法について

資料第1号について、樋口部会長より説明

(意見交換)

- ・ 支援者向けの分かりやすいチェックシートを作れたらと思う。完成したら利用者向けも作れたらよいと思うので、意見をいただきながら、よいチェックシートができたらと思っている。
- ・ 事前にアンケートがあり、介護保険への移行をよく知っている方、全く知らない方、経験がある方、ない方を分けてメンバー選定になっている。私は具体的に介護保険への移行の知識はほとんどないが、私が担当している方も移行になる方も多いので、勉強しながら、事例も踏まえ、知識を蓄えたい。

⇒樋口部会長よりワーキンググループの進め方を説明、全体の合意があった。

### (2) 暮らしをサポートする仕組みについて

①資料第2号について、樋口部会長より説明

②グループワーク

(意見交換)

〈グループ1〉

- ・ 住宅の問題が上がった。仲介業者や不動産屋、不動産業者、大家などにも、理解いただく取組が必要。問題のあるケースに関しては、近隣の声が影響することが多く、理解者との課題も残っている。
- ・ 既存の建物を利用し、シェアハウスや、外部のサービスを入れることも重要。よい事例をモデルケースとして住宅を提供していく工夫や、支援者が役割分担をすることも今後は必要。高齢者と障害者のグループホームなどを一体的に運営している地域もある。

〈グループ2〉

- ・ 資源不足が一番大きな課題。グループホームの要望があっても新しくできないことや、訪問

する介護者の人材不足や、在宅医療の不足で体制が整わないことが課題。グループホームに特化して言うと、知的障害の方や精神障害の方は、既存のアパートを利用する方法もあるが、身体障害の方はバリアフリーの問題があり、グループホームができていく。

⇒訪問診療の事業所がたくさんでき、24時間体制を取ることができているので、訪問看護は非常に充実していると思う。在宅医療が不足しているというのはどういう理由なのか。

⇒体調が悪くなって自宅に戻られた障害のある方がいたので、まだ不十分と思って発言した。充実しているなら、活用していきたい。

- ・最近対応したケースで、母と息子で暮らし、母が老人ホームに入り、身体障害のある本人が独りになった。今までは母と二人で暮らしてきて、慣れた生活の中に他人の支援が入ることへの抵抗感がある。母と同じケアマネが担当し、本人にとって受け入れやすい支援を考えている。
- ・障害サービスから介護保険のサービスに移行する流れで、介護保険にはあるけれども障害サービスにはない、障害サービスにはあるけれど介護保険にないサービスもあり、同じになっていかないと、移行は壁のあるものになる。

〈グループ3〉

- ・民生委員は、緊急連絡カードや敬老金の配付で高齢者と接点を持つ機会がある。コロナ前は、4か月健診やプレママのイベントで赤ちゃんを把握する機会があった。障害の方とは接点を持つ仕組みがなく、ニーズも見えない状況。例えば複合的な課題を持つ認知症の方の家族に障害の方がいるとか、賃貸が多いエリアでは障害の方の相談があるが、区内全域としての仕組みがなく、全くニーズが見えない地域もある。顔を合わせる機会がないので、住んでいる障害の方などと交流する機会がほしい。災害時の避難行動要支援者名簿に障害のある方が載っているが、通常時に把握ができていないので、災害時にも障害の方の把握ができない。
- ・区内の町会で、災害時の避難行動要支援者名簿に載っている方へチームで訪問しているところもあるので、接点を持っていけるとよいが、町会の中で合意するのも難しい。避難行動要支援者名簿を管理する所管が防災課だが、なぜ福祉が所管じゃないのかという疑問も出た。

(総括)

- ・東京大学の熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」という言葉がある。「自立支援協議会」にこの言葉を落とし込むと、「自立＝依存先を増やすこと」なので、「自

立支援協議会＝依存先を増やす支援の協議会」となる。全国的にも人口減少が起きている為、支援者も減少する。支援者が減少すると支援者一人の関係性の重要度が増してしまう。

その為、シェアハウスの話も出ていたが、色々な人のごちゃまぜグループホームなど、お互いに支え合い、依存し合う仕組みが平時の生活からあると、災害時などの平時以外も生活の継続は可能となるかもしれない。

そして、地域で互いに支え合う関係性を作るためには、民生委員にふだんから接していただくことも大事だと思う。

### (3) 親会での発表について

樋口部会長より説明

(質疑応答)

- ・一般の方や民生委員が参加されるならば、文京区はまだ住宅やグループホームを共有できるオーナーや不動産が少ないことを共有してもよいと思う。
- ・相談支援専門部会と地域生活支援専門部会が統合されて一年間協議してきたが、他の部会が何をやっているか、お互いのことを知らないことも結構ある。それを知り合うような機会に、当事者部会の方は自分たちのことを話す機会という意味でも今年度行い、次年度につなげていこうという流れにしたい。

⇒発表方針について、全体の同意を得た。

以上